

水滴のふきとり方

[準備物] 掃除棒・布

※ 布は薄手で吸水性のある物を使用してください。

1. 布で頭部管をふく。
2. 布をリコーダーの頭部管の窓に当てる。
3. リコーダーに息を吹き込み、中に残った水滴をとりのぞく。(写真A,B)

感染症予防のため、窓を手で直接おさえずに必ず布を当てて息を吹き込んでください。



写真A 頭部管の窓(丸部分)



写真B リコーダーに息を吹き込む

4. 掃除棒に布をつけて、頭部管と中部管の中に残った水滴をふきとってからケースにしまう。(写真C~E)



写真C 布を掃除棒の穴に通す



写真D 布を掃除棒のまわりに巻く



写真E リコーダーの中の水滴をとる

お手入れの後、布はビニール袋などに入れて持ち帰って早めに洗いましょう。手は石けんなどできれいにしてください。

「リコーダーお手入れマニュアル」は感染症対策を考慮しています。印刷用データは当社ホームページよりダウンロード可能です。また演奏時の微粒子可視化実験の結果がQRコードよりご覧いただけます。



<http://www.aulos.jp/>

お問い合わせ先

トヤマ楽器製造株式会社

東京本社 〒174-0061 東京都板橋区大原町41

TEL (03) 3960-8301 (代表) FAX (03) 3965-2377

大阪営業所 〒541-0057 大阪市中央区北久宝寺町2-1-7 本町和光ビル802

TEL (06) 6264-7191 (代表) FAX (06) 6264-7130

楽器の洗い方 感染症予防のため、こまめに洗いましょう

[準備物] 洗面器などの容器・中性洗剤・掃除棒・布・タオル

※ 洗剤は中性を、布は薄手で吸水性のある物を使用してください。

1. 容器に水またはぬるま湯と
中性洗剤（1ℓあたり5～10cc）を入れる。

楽器が変形するため、熱湯は絶対に使用しないでください。



写真A つけ置き洗い

2. リコーダーを容器に入れて
30～40分程度、つけ置き洗いする。（写真A）

3. 容器からリコーダーを出して
水でしっかりと洗い流し、外側についた
水滴をタオルでふきとる。



写真B 布を掃除棒の穴に通す

4. 掃除棒に布をつけて
頭部管と中部管の中の水滴をとる。（写真B～D）



写真C 布を掃除棒のまわりに巻く

5. リコーダーをタオルの上で十分に
自然乾燥させ、ケースにしまう。（写真E）



写真D リコーダーの中の水滴をとる

中性洗剤の量は、独立行政法人 製品技術基盤機構より
発表された情報（2020年5月21日時点）をもとに記載しています。
感染症の情報は日々更新されますので、最新の情報はウェブや
新聞等でご確認ください。

トヤマ楽器製造株式会社



写真E タオルの上で乾燥

各お手入れの写真は、ソプラノリコーダーを使用しています。